

事例

# 自閉症児者療育相談

山形県社会福祉事業団（山形県） 〒999-0134 山形県東置賜郡川西町大字下小松2045の20 TEL 0238-46-3101

## 活動の概要

強度行動障害特別処遇事業の一環として、在宅あるいは施設等を利用している自閉症児者の、家族や支援に関わる方からの療育相談を受け、臨床心理士や、スタッフ職員が、療育や支援についてのアドバイスを行ったり、専門機関の紹介等を行います。

## 法人の概要

当法人は、山形県が設置した社会福祉施設を受託運営することにより、一層向上したサービスが提供でき、かつ住民本意のより可能であるとのいわゆる公立民営の精神に立脚し、県の福祉行政と密接な連携を保ちながら、県民福祉の向上に貢献する目的で、昭和39年に設置された法人です。

県内各地の事業所を中心に、第1種社会福祉事業、第2種社会福祉事業、公益事業を展開していますが、平成15年4月からは4つの特別養護老人ホームの自主経営を開始するとともに、在宅福祉、地域福祉の分野にも積極的な事業展開を図っています。

### ●経営施設数…53

●法人全体の年間事業収入…7,500,000千円

### ●主な経営施設

特別養護老人ホーム 松濤荘 昭和43年設立 定員100名  
 特別養護老人ホーム 寿泉荘 昭和47年設立 定員100名  
 特別養護老人ホーム 福寿荘 昭和49年設立 定員100名  
 特別養護老人ホーム 大寿荘 昭和51年設立 定員100名  
 救護施設 みやま荘 昭和45年設立 定員100名  
 救護施設 泉荘 昭和47年設立 定員80名  
 身体障害者更生施設 梓園 昭和48年設立 定員70名  
 身体障害者授産施設 鶴峰園 昭和51年設立 定員50名

身体障害者通所授産施設 ワークショップ明星園

平成7年設立 定員30名

知的障害者更生施設 吹浦荘 昭和41年設立 定員70名

知的障害者更生施設 慈丘園 昭和48年設立 定員70名

知的障害者更生施設及び授産施設 昭和49年設立 定員500名

精神障害者地域支援センター 平成13年設立

福祉休養ホーム 寿海荘 昭和54年設立 定員56名

障害者就業・生活支援センター 平成14年設立

## 実施施設の概要

- 施設名…山形県立総合コロニー希望が丘しらさぎ寮
- 施設種別…知的障害者更生施設、定員100名

## ■施設の運営方針

安全と安心並びに人権擁護を基調とした利用者本位のサービス提供の充実と、個々のニーズに合わせた個別生活支援の推進と共に、在宅支援、地域生活移行に向けた取組み強化。

強度行動障害特別処遇事業の充実。

## 1. 地域ニーズへの対応

(1) 施設機能などの地域還元

### 活動の内容

- 活動対象者…在宅の自閉症児者、その家族、自閉症の支援に関わる方
- 活動の頻度…随時
- 年間延利用者数…23名
- 活動開始年…平成12年

### 活動開始の背景（取り組みの経緯）

昭和60年頃より自閉的傾向の見られる方が何名か在籍していましたが、平成3年、強い行動障害を持つ自閉症の方が入所されたことから自閉性障害の特性の理解と、それに基づいた支援に取り組み始めました。研修も自閉症に関わる内容のセミナー、実地研修等積極的に参加し、援助技術の向上を目指してきました。平成12年1月より、強度行動障害特別処遇事業の認定を受け、訓練棟を設置し、専任スタッフと共に臨床心理士、精神科医といった専門スタッフも嘱託配置し支援を行っています。事業の一環である啓発活動から、在宅の自閉症児者の家族の方による療育相談や、施設等利用中でも支援の困難性の高い方への支援内容についての相談等を受けるようになりました。

### 人材・資金面等での工夫、苦慮

特別事業対象者の支援と共に、寮利用者への支援も行っており、スタッフも変則勤務のため、職員配置に調整が必要であり、相談の日程、時間帯を施設側の都合に合わせてもらうケースも多い。また、臨床心理士が多忙なこともあり、月に2～3回の勤務の時もあり専門スタッフによるタイムリーな対応ができない時もあります。

### 利用者の声、地域の反応

地域に在宅の方が相談できる資源が少ないため、学齢期から成人期にかけての方の相談が多い。継続的なアドバイスにより、家族や学校、施設関係者の理解が得られたり、行動改善が見られたケースもあります。養護学校等、学校教育あるいは施設での取り組みも充実してきていますが、卒業後の生活について不安を持つ家族の方も多い。ニーズに応じ、サポートできる資源の整備に対する要望が高い。

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

在宅の方だけでなく、施設支援関係者についても、情報交換や療育困難なケースへのアドバイス、それによる行動改善等評価を得ています。又、支援の継続性、ネットワークの必要性から、今年度より自閉症療育研究協議会を発足し、近隣の施設、養護学校といった関係機関の地域でのネットワーク作りを行っています。生涯にわたるケア及びファミリーサポート、療育相談機能、必要な時に必要な支援を提供してくれるジョブコーチやガイドヘルパー、スケジュールキーパー等、ニーズに応じ、総合的にコーディネートできるセンター的機能が早急に必要です。